**フリーメイソンロッジの門**

この門はかつてフリーメイソンの地元支部が集会を開いた長崎メソニック・ロッジ・ビルの正面を示していた。フリーメイソンは18世紀初頭に設立された友愛結社で、そのルーツは中世ヨーロッパに存在した石工組合に遡ると考えられている。メイソンのロッジは世界中のフリーメーソンリーの基本的な組織単位である。この門の柱の一つには、石工団体の象徴である直角定規とコンパスが彫り込まれている。

長崎メゾニック・

ロッジは1885年に設立され、スコットランド出身のジョン・カルダー(1847~1892年)が初代マスターを務めた。会議はその後、下り松にあるアーサー・ノーマン(1854~1897年)の新聞社の二階で開かれた。設立メンバーのほとんどは、三菱長崎造船所に勤務するイギリス人男性で、石造のシンボルは、長崎国際墓地にある墓のいくつかで見ることができる。しかし、多くの憶測があるにもかかわらず、トーマス・グラバー(1838~1911年)、またはフレデリック・リンガー(1838~1907年)がフリーメーソン会員であったという証拠はない。

長崎ロッジは1919年に解体され、建物は50年代後半から60年代前半に解体された。正門は保存され、旧グラバー邸と旧リンガー邸の間の芝生に移された後、今度は旧リンガー邸の隣に移転した。この正門は、他の居留地の石造建築と同様、天草砂岩でできている。

--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

|  |  |
| --- | --- |
| 採用番号NO： | 023-017 |